



派遣先所属 福島県企画調整部避難地域復興局生活拠点課

氏 名 増子 範行 (ますこ のりゆき)

派遣期間 平成31年4月1日～令和元年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の福島県企画調整部避難地域復興局生活拠点課では、主に災害救助法に基づく応急仮設住宅の供与に関する事、被災者生活再建支援制度等に関する事、長期避難者等の生活拠点の整備に関する企画、調整等に関する業務を行っています。他自治体の応援職員は東京都職員1名、千葉県職員1名、富山県職員1名と埼玉県職員1名の4名が別々の担当に派遣されています。

	避難市町村生活再建支援事業	福島県 生活拠点課 Tel: 024-521-2832
事業の内容 平成30年3月末で東京電力による家賃賠償が終了した世帯等に対して、国や避難元自治体等と連携を図りながら一定期間の家賃等を支援するとともに、生活再建に関する意向を確認し、必要な支援に結び付ける。		
事業イメージ		
<p>(1) 避難市町村家賃等支援事業 応急仮設住宅の供与が2020年3月末まで一律延長された区域からの避難世帯に対して、家賃賠償終了後の家賃等を支援する。</p>  <p>対象者 富岡町、大熊町、双葉町、浪江町の全域並びに葛尾村及び飯館村の帰還困難区域からの避難世帯の代表者等</p> <p>助成金額 家賃、共益費（管理費）及び更新手数料相当額</p> <p>※ 家賃（共益費、管理費を含む）の上限額は次のとおりです。 ○賃貸住宅等1戸につき、平成31年3月分助成額が上限です。なお、3月分助成額が6万円以上の場合、入居者4人までは月6万円（5人以上は月9万円）までです。 ○応急仮設住宅に係る超過分の家賃負担額は、支援対象外です。</p>		
<p>(2) 避難市町村避難者意向確認事業 避難世帯の生活再建に関する意向を確認し、円滑な生活再建のために必要な支援に結び付ける。</p> <p>① 県（委託業者）の「電話」による実態把握</p> <p>② 国・県・東京電力の「電話・戸別訪問」による生活サポート（連絡が取れない世帯や支援が必要な世帯への意向確認）</p> <p>③ 市町村と情報共有し、必要に応じて支援</p>		

私の担当で行っている避難市町村生活再建支援事業では、原発事故による警戒区域等からの避難者のうち、東京電力による家賃賠償が平成30年3月をもって終了した世帯で、家賃等の助成を希望する世帯を対象に、家賃等の助成を行っています。

応急仮設住宅の供与は、一部の地域からの避難世帯について1年間延長することとなっていますが、この助成金は、応急仮設住宅で避難生活を継続するか、民間賃貸住宅等を自ら借借し家賃賠償を受けて避難生活を継続するかによって支援の終期に差が生じることになってしまうため、住まいの違いによる支援の不公平感を是正し、避難世帯の円滑な生活再建を支援するために行われております。

また、東京電力による家賃賠償が終了した後も生活再建に一定の支援を必要とする世帯が少なくありません。円滑な生活再建のために、戸別に状況を確認して必要な支援につなげるなど丁寧な対応が求められており、支援の必要な世帯への意向確認を実施するとともに、そこから得られた要支援情報を参考に必要な支援を展開する事業を行っています。

意向確認イメージ図



2 被災地の復旧・復興の状況

私の住んでいる福島市（中通り）では、震災の影響、原発事故の影響を感じることはありません。しかし、原発事故による被害を受け、避難指示が解除されていない区域があり、そこに住んでいた方々については、未だ避難生活を余儀なくされているのも確かです。

光の部分としては、復興公営住宅（原子力災害による避難者のための住宅）については、4890戸整備予定のうち、97%の4767戸が完成、ふくしま復興再生道路などの道路インフラ等の充実、帰還困難区域においても特定復興再生拠点区域復興再生計画が認定され、除染・工事が始まるなど、避難地域の復興再生が着実に進んでいます。



3 被災地へ派遣となって感じたこと

福島県で仕事をするのは今年で2年目になりますが、昨年度は、書類の保存方法、起案方法、他部局との仕事の調整方法など、こうも埼玉県のやり方と違うのか…と戸惑いましたが、プロパー職員のサポートもあり、慣れることができました（福島方式に慣れてくると埼玉方式を忘れてくるという弊害がありますが…）。「この方法は埼玉県でも使えるな」、「埼玉だとかやっていたので福島県でもこうやればよいのに」などと、職場で話し合ったりもします。

私生活では、休日には、車で30分も走れば、大自然に囲まれたさまざまな温泉があり、観光気分を味わいながらのんびりと過ごしています。また、福島県は、おいしい日本酒が数多くあり、それらを飲むことも楽しみの一つとなっています。

これからのシーズンは、スキーも楽しめます。いちばん近いところだと、自宅から車で40分もかからないところにスキー場があるので先シーズンは頻繁に通うことができました。その他福島県には複数のスキー場があるので、今年はいろいろなスキー場に行ってみたいと思います。

今後は、埼玉県の良さを福島県の人に知ってもらうとともに、福島県の良さをいろいろな人にPRしていこうと考えております。

これを読んでいただいた皆様も、ぜひ福島県に来て、見て、食べて、呑んで、福島県の良さを感じていただきたいです。



相馬野馬追



鶯倉温泉



あぶくま洞



福島の日本酒